

## 国 営 事 業 の 総 仕 上 げ に 向 け て



農林水産省関東農政局両総農業水利事業所

所長 小 泉 勝

両総用水事業推進協議会の皆様方には、日頃からまた長年にわたりまして国営事業の推進に深いご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼を申し上げます

本事業は平成5年度の着工以来18年目を迎えておりますが、当協議会をはじめとして両総土地改良区、千葉県など地元関係機関の温かいご協力をいただき、これまでおおむね順調に事業を推進して参りまして、平成21年度末までの進捗率は約87%（事業費ベース）となっております。

しかしながら、昨年末の平成22年度予算編成においては、国の財政の逼迫や新たな政策への転換等により、農業農村整備事業予算は対前年比36.9%、当地区においては1,240百万円（対前年比22.5%）というかつて経験したことのない大幅な減額となり、受益者の皆様方に大きな不安とご心配をおかけいたしました。このため、年明け以降この夏にかけては、事業推進協議会をはじめとして、14市町村、土地改良区からは所要の予算確保に向けた意見書の提出や関係方面への要請活動などを精力的に行っていました。

この結果、去る8月23日には、森田千葉県知事に初めて当事業地区のご視察をして頂き、両総地域、房総地域に農業用水、都市用水を送り続ける両総用水の歴史と重要性、役割などについて実情をご理解頂くことができました。

また、9月に入りましては、すでに報道等でご案内のとおり、来年度予算の概算要求、そして緊急的な経済対策ということで予備費の追加予算の割り当てが公表されました。9月24日に閣議決定されました予備費による緊急経済対策におきましては、「地域の防災対策」として当地区に対して1,334百万円という当初予算を上回る追加事業費が認められ、現在その執行に向けた準備に入っているところです。

このように、関係者各位の温かいお力添えをいただきまして事業推進ができますことは、事業主体としてもたいへん心強く、また深く感謝申し上げますところでございます。

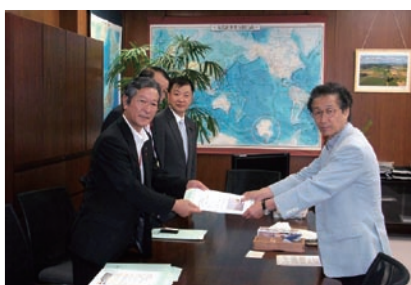
さらに、平成23年度予算の概算要求につきましては、農林予算総額で101.5%の要求の中、農業農村整備事業いわゆる土地改良の関係では今年度の105.2%、さらに国営事業では121.6%の要求となっております。こうした中で、当両総地区については2,235百万円（対前年比180%）の要求が認められております。これから年末の予算編成に向けて、まだまだ予断を許さないところがございますが、引き続き、地域の声を中央に伝え、現場の実情を理解していただけますよう、会員の皆様のお力添えを重ねてよろしくお願いいたします。

なお、ここでは紙面の制約上、具体的なご説明はできませんが、平成23年度の概算要求の中には、水田農業経営の下支えを目的として本格的着手となります戸別所得補償制度に加えて、当管内でもその取り組みが有望視されている米粉、飼料用米生産に対する助成のほか、補助事業の交付金化、また管内の各集落において積極的に取り組んでいる「農地・水保全管理支払い」の事業などが、制度改正をしつつ仕組まれておりますので、地域農業の振興や活性化のために是非ともご活用いただきますとともに、一言お声をかけていただきましたら、いつでも事業内容等のご説明にあがりますので併せてよろしくお願い申し上げます。

今年は、春の長雨から夏の猛暑、そして秋になってからの集中豪雨、台風などと、大変厳しい天候が続きました。農作物への影響が心配されたところですが、管内のお米の作柄はおおむね平年作とお聞きしております。この厳しい気象変動の中、土地改良区を中心として関係機関の皆様には適切な水管理をして頂きましたことに対し心から敬意を表するとともに、あらためて両総用水の果たしている役割、先人たちのご労苦に思いをはせ、一日もはやくこの事業を完遂する決意を強くしている次第でございます。

このような中で、今年度の工事につきましても、9月以降管内各地区において本格的に着手しておりますが、各市町村や土地改良区の皆様方には、またそれぞれの地元調整等で何かとご支援、ご協力を頂戴いたしますが、よろしくお願い申し上げます。（平成22年7月30日着任）

### 農林水産政務三役及び与党幹事長へ要望活動！！



政務官室にて



党本部にて

去る6月18日、志賀会長（東金市長）、林副会長（白子町長）が、農林水産政務三役及び与党幹事長へ、国営かんがい排水事業「両総地区」の完成に向けた予算確保について、要望活動を行いました。農林水産省では佐々木政務官へ、党本部では山根・松浦副幹事長へ直接要望書を手渡しました。